

式 辞

本日ここに、令和七年館山市成人式 ～二十歳のつどい～を挙行するにあたり、式辞を申し上げます。

本日お集まりの皆様におかれましては、輝かしい令和七年の幕開けとともに、二十歳という人生の節目を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

また、ご来賓の皆様方には、公私共にご多用の中、ご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

このよき日を迎えることができたのは、これまで皆さんを慈しみ、育ててこられましたご家族の皆様をはじめ、熱心にご指導頂きました恩師や先輩、ご友人など、多くの方々の支えがあつてのことだと思えます。

本日の式典が、そうした方々へ改めて感謝する日となり、人生の軌跡として、今後の糧となることを願っております。

本日の式典は、二十歳を迎えられた皆さんで構成する実行委員、十人のメンバーが中心となって、準備を進めていただきました。

学業や仕事で忙しい中、今日までご尽力を頂き、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

この度の「二十歳のつどい」には、実行委員会の皆さんに

より、「咲^{さいかい}皆 ～ 咲き誇る未来へ～」というテーマが添えられています。

「咲^{さいかい}皆」は、皆が咲くという字があてられており、本日の成人式が、皆様が「久しぶりに会う再開の場」であると同時に、「皆さんの明るく咲き誇る未来」を願い、テーマとしたと伺っています。

ここで、「咲き誇る」という言葉から、ひとつお話をさせていただきます。

房南中学校出身で、現在、車イスマラソンの選手として、世界で活躍されている鈴木朋樹選手についてです。

鈴木選手は、昨年のパリ・パラリンピックの車イスマラソンの部で、見事、銅メダルを獲得されました。

ゴール後のインタビューでは、『「最後まで諦めない」と言いながらゴールまで頑張った。両親からもらった名前を歴史に刻めたことがとてもうれしい』とコメントしています。私もとても胸が熱くなったのを今も覚えています。

パラリンピックという大舞台でのメダル獲得は、日々、厳しいトレーニングを積み重ね、その努力が実を結んだ結果、花を咲かせたものです。

彼の活躍は、私達市民にとって大きな誇りであり、また、障がいの有り・無しに関わらず、多くの人に勇気を与え、希

望の光となったことでしょう。

皆さんも、この先、夢や目標に向かっていく中で、様々な場面に直面し、くじけそうになることや戸惑うことがあるかもしれません。

しかし、皆さんが、それを乗り越えた先には、咲き誇る未来が待っているものと確信しています。

私も館山市長として、皆さんのふるさと館山が『住んでいてよかったと思えるまち』、『若者が戻ってくる、戻って来たい、移住したいと思えるまち』となるよう、一つひとつの課題に真摯に向き合ってまいります。

皆様方には、これからの人生の一瞬一瞬を大切にいただき、それぞれの分野で目標に向かい、力強く前進されることを強く願って止みません。

次の世代を担う皆さんの若い力と豊かな感性に大いにご期待申し上げますとともに、希望に満ちた輝かしい前途を祝福し、式辞といたします。

令和七年一月十二日

館山市長 森 正一

本日は、誠におめでとうございます。